東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

家庭科実践記録にみる子どもの生活をまん中にした授業構想の契機：2008年以降の家教連家庭科研究を対象として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 公開日: 2023-12-11 キーワード (Ja): 家庭科教育, 家庭科教育研究者連盟（家教連）, 実践記録, 子どもの生活をまん中に, ETYP:教育実践, SSUB:家庭科 キーワード (En): home economics education, the organization of educational scholars of home economics, records of classroom practice, centering on children's lives 作成者: 椎谷, 千秋, 河村, 美穂 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学, 埼玉大学
URL	http://hdl.handle.net/2309/0002000159

家庭科実践記録にみる
子どもの生活をまん中にした授業構想の契機
── 2008年以降の家教連家庭科研究を対象として ──

椎谷　千秋*・河村　美穂**

本研究は，公表を前提とし，教師の主観性を排除しない自己省察的な実践記録の価値を尊重する立場に立つ。そのうえで，実践記録が創立時より継続して掲載されている「家教連家庭科研究」を対象に，家庭科の授業実践の目的が創立時より明確かつ一貫していることが実践記録にどのように表れているのか，家教連がめざす「子どもの生活をまん中に」した家庭科授業とはどのような授業なのかを明らかにすることを目的とする。

研究手続きとして，2008年（274号）から2022年2月（366号）の期間に発行された機関誌「家教連家庭科研究」93冊の小・中・高等学校の家庭科実践記録から選定した211報を対象に，詳細な分析を試みた。

その結果，「家教連家庭科研究」実践記録の「実践の目的」に記述されていたことを分類し，その特徴を4つの大カテゴリーと9つの中カテゴリーに分けた。特に「再現可能性あり」と判断した実践記録の37％は「子どもの生活をまん中に」した授業を教師が意識的に構想していた。これは，教師が自分の授業を自己省察的に記述し，授業構想にかかわる教師自身の考えや価値を記録内に表現していたからである。さらに中学校保育・高齢者を含む家族分野では，授業構想の契機が確認できた実践記録は41.2％であり，先行研究の対象誌「理論と実践」掲載の実践記録と比べて約4倍多かった。

本研究がこのような成果を得られたのは，教師が自分の授業を自己省察的に記述し，授業構想にかかわる教師自身の考えや価値を記録内に表現していたからである。そのような実践記録こそが，授業の「本質的」な再現を可能にし，エッセイ以上の実践記録の役割を全うできると考える。望ましい実践記録には同じ授業を多くの人が共有できるように「単元計画」や「授業資料」を取り入れて書くこと，「本質的」に同じ授業をするために授業構想の契機を教師自身の主観性を尊重して書くことを制限しないことが重要であることがわかった。

家教連は創立に至る時期から今日までめざしてきた「子どもの生活をまん中に」というフレーズが家庭科教師の教育実践を支えとなってきたと考えられる。このフレーズが意味するのは，授業内外での子どもの見取り方が家庭科授業の質を左右することである。そのため，子どもの実態に合わせて授業を構想することが求められる。つまり，授業構想の契機にこそ，「子どもの生活をまん中に」する意識が必要なのである。以上より，「子どもの生活をまん中に」した授業とは，授業内外での子どもの見取り方から，教師の授業のねらいと子どもの生活課題が一致した授業のことであり，教師の成長に伴い順を追って発展するものと結論づけた。

Key words

家庭科教育，家庭科教育研究者連盟（家教連），実践記録，子どもの生活をまん中に

*東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科生活・技術系教育講座講座

**埼玉大学教育学部（元）